

『 日本のお月見十三夜について 』

日本には、秋の夜空に浮かぶ美しい月を眺める『お月見』という風習があります。夏が過ぎ、涼しくなり始めた時期に、満月の夜を見て楽しむのは、日本の秋の風物詩ともいえます。今回は日本の『お月見』についてご紹介します。



【お月見とは】

お月見とは、1年の中で最も空が澄み渡る時に、美しく明るい月を眺める行事のことで、「十五夜」が広く知られています。「十五夜」は、その年によって日にちが変わります。毎年9月中旬から10月上旬の間に「十五夜」がくるとされています。2020年の「十五夜」は10月1日でしたが、実は、中国から伝わった十五夜に対し、もう一つ、日本由来のものといわれている「十三夜」という風習があります。「十五夜」と同様、「十三夜」もその年によって変わります。今年の「十三夜」は、10月29日（木）です。

【十三夜について】

「十五夜」の方が、一般に広く普及しているのですが、十五夜が月の神様に豊作を願うのに対し、十三夜は、時期的に稲作の収穫を終える地域が多いことから、美しい月を愛でながら稲を収穫できた喜びを分かち合い、秋の収穫に感謝する日だったようです。十三夜のお月見の始まりについては諸説ありますが、十五夜と同様平安時代に天皇たちが月見の宴を催し、歌を楽しんだのが始まりとされています。



【お供え物】

十五夜と同じように、十三夜にもお供えをして楽しむ風習があります。

○農作物・・・粟、豆など収穫されたばかりの農作物をお供えし、収穫に感謝します。

○すすき・・・悪霊や災いなどから収穫物を守り、翌年の豊作を願う意味があるすすきもお供えものとして用いられます。

○お団子・・・月に見立てた丸いお団子をお供えして、月に収穫の感謝をします。十三夜では13個のお団子を用意し、1段目に9個、2段目に4個並べるそうです。



涼しい秋の夜に美しい月を眺めながら、お団子を食べたり、部屋を飾ったりしてご自宅で「お月見」をお楽しみください。

・このコーナーへのご質問、ご意見、ご要望がありましたら、宮崎県国際交流協会（MIF）までご連絡ください。 TEL：0985-32-8457 FAX：0985-32-8512 Email miyainfo@mif.or.jp

・毎日の生活に関して、ご質問、心配事などありましたら、「みやざき外国人サポートセンター」にご連絡下さい。TEL：0985-41-5901 FAX：0985-41-5902 Email support@mif.or.jp